

ハンディキャップを持つみなさんの

就労支援と社会参加を目指して。

サポートセンター

S.C. まや

(Support Center for Handicapped people Maya)

ふなつ しずや
船津 静哉さん
(S.C. まや施設長)



『S.C. まや』は、食と農業をテーマとした障害者支援サービス施設。2013年に惜しまれつつ閉校となった多久市立南部小学校の跡地を利用して、2015年4月に開設されました。ハンディキャップを持つみなさんの一般就労に向けた支援をしながら、地域と交流できる場を目指しています。施設利用者は、知的障害のある人、統合失調症をはじめ精神的な理由で家にひきこもってしまった人などさまざま。ここに通ったのち、現在一般就労でがんばっている人もいます。

まやで障害者のみなさんが取り組んでいる仕事は、コンピュータシステムを利用した最先端のハウスで行うトマト栽培や、そこで採れたトマトを使った加工品（ドライトマト）づくり。施設内の菓子工房ではパンやシフォンケーキづくり。また敷地内の菜園や近隣で借りている畑を利用して、しいたけ栽培やオリーブの栽培なども

行っています。今年6月には東多久町納所のハンバーガー店と提携して、ドライトマトをバンズに練りこんだ『ご当地バーガー』が商品化されました。

「開設当初、農業は自分たちもはじめての経験で、近くのベテラン農家さんに教えていただきまし」と語るのは、施設長の船津さん。「でも採れたてのトマトを箱に入れて施設前の沿道に並べたら、ものすごく反響があったんです。みなさん車を止めて買いに来てくれて、それがきっかけで直売所がにぎわうようになったのは感慨深いですね。また私は毎朝玄関に立ち『おはよう！』と声をかけているのですが、みんなが笑顔で挨拶してくれると本当にうれしいですよ。朝の表情を見て調子が悪そうだなと感じたときは『どうしたの？』と声をかけてみたり。多

今後は直売所兼レストランを建てる計画もあるそうです。地域のみなさんをはじめ地元企業や農家と連携をとりながら、障害者のみなさんの社会参加の場を広げようと取り組んでいます。収穫祭などのイベントも定期的開催されていますので、みなさんもぜひ気軽に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

以前子どもたちが学んでいた校舎が、障害者を持つみなさんの就労訓練の場となりました。しかし、この場所には、以前と変わらない真剣なまなざしと、たくさんの笑顔があふれています。ハウスの内、真っ赤に実ったトマトには、育てられたみなさんの温かい心が凝縮されていました。